

事前評価報告書

事業名: 自然資源活用での地域生活を目指す方の独立支援事業

実行団体: ワイルドウインド

報告者: ワイルドウインド

資金分配団体: 地球と未来の環境基金

実施時期: 2021年4月～2024年3月

対象地域: ①全国（開催は奈良県吉野郡中心）②奈良県吉野郡③奈良県吉野郡、全国

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

概要

事業概要

①全国の中山間地域で自伐型林業をメインとした半林半Xの生活を目指す方々を対象に「自伐型林業学校」を奈良県吉野郡で開講する。技術の向上支援はもちろん、現地での経営相談や作業支援など包括的な自立・独立を最後まで支援するものである。また5年程度を目途に希望者には次世代の講師として活動する段階までの指導・支援も同時に行い、自団体からも若手講師を育成する。

②奈良県吉野郡の各自治体で、吉野の新しい「山守」を目指して活動する自伐型林業の地域おこし協力隊員を主な対象に、「八千代の学校」を開講する。地域資源を活かした持続的な副(複)業の提案、講習、OJT等から知識と技術を身に付け、自ら実践し地域移住の収入の柱を作る事を目的とする。

③関西近郊の都市部で生活に必要な収入源となる定職をお持ちの方で、副業的に自伐型林業に関わりたい方を対象に「ミニ自伐型林業学校」（仮称）を開講する。自らの現場や重機等がなくとも技術レベルを上げて行けるように、八千代の森の現場を使った講習やOJTなども取り入れる。現在在職中で、将来自伐型林業を主軸に考える方の準備講習としても機能する内容で開催する。

中長期アウトカム

・事業終了後5年後に、八千代の森として開催する自伐型林業学校が技術習得、独立支援の中央機関として認識され、全国で100名を超える森林を守り育てる担い手が活躍している。5名程度の作業道準講師が誕生している。

・「長伐期多間伐施業」と「壊れない道づくり」を基本とする自伐型林業等の手法を活用した、経済的にも環境的にも持続可能で、森林の耐災害性を高める林業が全国各地の複業型林業として定着し、循環型地域社会が形成されている。

・事業終了後5年後に、奈良県東南部山間地域（以後、吉野地域という）において、半林半Xの複業型ライフスタイルを確立した20名を超える若者が、新しい時代の山守として伝統ある吉野林業を引き継いでいる。

・地域の自然資源を活用した複業が掘り起こされて増えた新たな働く場と林業とを組み合わせる事で、移住定住者や新たに生まれる子どもが増え、新たな吉野の山守が安心して住み続けられる自立的かつ持続的な地域社会となっている。

・事業終了後5年後に、都市部で定職を持ちながら副業的に林業や里山活動に関わりたい30名程度の方が、吉野地域の新しい山守が実践する半林半Xの仕事に協働する事で、都市と山村の人の対流が生まれ活性化した地域社会が形成されている。

短期アウトカム

自伐型林業学校として全国で半林半Xの生活を目指す方々の、実際のスタート支援と継続的なサポートを担う中央機関として認識され、継続的に開催され受講生が学んでいる。

ミニ自伐型林業学校として、副業的に自伐型林業に関わりたい方が学ぶ場が定期的に提供され、半林半Xの方との協働が始まっている。

次世代の講師育成の特別機関としても機能し、講師が育つ事で学校運営が安定し新たに自伐型林業を始める方が毎年継続して増えている。

自伐型林業学校の資機材や受入れ環境が常に確保され、メニューに応じた現場が常時確保されている状況になっている事で、継続的に講習会が開催されている。

県内の吉野林業（自伐型林業）復興に積極的な自治体の中で、林業担当課や移住定住課、観光課など課を横断して相談出来る関係が出来ている。自治体と民間が一体となり新たな担い手が半林半Xの生活を確立するサポート体制が出来、地域おこし協力隊の受入れが継続している。

全国の半林半Xを目指すグループの中で八千代の森の活動が認知理解され、自伐型林業学校の講習問い合わせや現地指導、事前事後相談などが常に行われている。

吉野地域において、持続的に住み続けられる半林半Xの生活を確立した八千代の森メンバーは、地域おこし協力隊退任後の事業終了後も継続的に吉野地域で暮らしている。メンバーも自然資源を活用した複業の数も増えている。

吉野地域で半林半Xの新しいスタイルの山守が活躍し、それに続く人材も県内各自治体の地域おこし協力隊として途切れることなく活躍している。副業的に自伐型林業に関わる方々も巻き込んで複数の施業グループが活動している。

事業の背景

(1) 社会課題

①より高度で実践的な研修の必要性

自伐型林業推進協会の近年の活動とコロナ禍による価値観の変化に伴い、自伐型林業に興味を持つ人が年々増えている。初心者向けには、自伐型林業推進協会（以下、自伐協とする）によるフォーラムの開催、自治体や地球のごと大学、厚労省の林業支援事業などの研修が実施されている。初心者向け研修の修了者はさらなる知識、技術の向上を求めているが、国や地方公共団体の支援も行き届いておらず、さらなるステップアップの研修を確実に実施できる技術や体制を持った機関、団体は全国的に見ても存在しない。

②半林半X実現に向けた副収入の確保

現在、奈良県の4つの自治体において自伐型林業をメインに移住定住を目指す地域おこし協力隊員が10名以上活動している。自伐型林業の技術習得に関しては、各自治体で現場と重機等を準備し、当団体の講師が毎月訪問指導を行っており、3年間での独立に向けた技術習得は可能である。しかし、隊員の中で自伐型林業以外の副収入の柱を確立している者はほとんどいない。

③副業的な自伐型林業の実現

都市部に住み定職を持つ人が自伐型林業の研修会に参加する事例が増えている。初心者向けの体験研修会が終わった後、活動する場所がない、技術を向上させる講習会等もない現状がある。休日や余暇を使って副業的、ボランティア的に中山間地域での自伐型林業へ携わりたいと考えているが、仲間を作る事も難しく活動現場や機材の確保も上手く出来ていない。

(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況

①支援は行き届いておらず、個人の努力に任せている状態。

②アドバイスをする程度にとどまっている。

③支援は行き届いていない。

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役職等
内部	評価全体の進行管理、ワークショップファシリテート	事業責任者
	調査報告作成、ワークショップ参加者	事務局長
	ワークショップ参加者	
外部		

評価実施概要

評価実施概要
<p>事前評価では、課題の分析と事業設計の分析を行った。前者においては、特定された課題／事業対象の妥当性を評価するため、対象グループはどのような問題、関心、期待、希望を持っているかを評価小項目として設定し、より高度な講習会を希望する方々、奈良県吉野地域での自立を目指す協力隊のメンバー、副業的に自伐型林業に関わりたい方々などに対して7月から8月にかけて随時インタビューを行った。後者においては、事業設計の妥当性を評価するため、事業が効果を上げた場合に実現する状態は望ましいのか、目標の達成・課題解決の道筋は論理的（手段・目的の関係は成り立っている）かを評価小項目として設定し、団体のメンバーで9月4日にワークショップを行った。</p>
自己評価の総括
<p>事前評価の結果、特にコロナ禍による価値観の変化に伴って、中山間地域に移住し経済的にも環境的にも持続可能な自伐型林業による自立を目指して講習や地域おこし協力隊などに応募してくる若者や、都市部に住みつつも副業的に自伐型林業に関わりたいと考えている人がますます増加していることが明らかになった。これらの人々が抱える問題は、「自伐型林業のより高度で実践的な研修の必要性」、「半林半X実現に向けた副収入の確保」、「副業的な自伐型林業の実現」といった当団体によって特定された課題内容と概ね合致していた。</p> <p>これらの課題を解決するために、「自伐型林業の技術教育と独立支援を行うことによってその担い手を全国に育てる」という本事業の目標、それを達成するための中長期アウトカム、短期アウトカム、アウトプット、活動という事業設計の内容が、論理的なつながりを描けていることを関係者間で確認・合意した。</p>

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	<p>①より高度で実践的な研修の必要性 自伐型林業推進協会の近年の活動とコロナ禍による価値観の変化に伴い、自伐型林業に興味を持つ人が年々増えている。初心者向けには、自伐型林業推進協会によるフォーラムの開催、自治体や地球のしごと大賞、厚労省の林業支援事業などの研修が実施されている。初心者向け研修の修了者はさらなる知識、技術の向上を求めているが、国や地方公共団体の支援も行き届いておらず、さらなるステップアップの研修を確実に実施できる技術や体制を持った機関、団体は全国的に見ても存在しない。2019年は開催3回で参加者10名、2020年は開催4回で参加者20名での講習会を開催しており、全国の自伐型林業を志す方々のニーズは非常に高いと言える。</p> <p>②半林半X実現に向けた副収入の確保 現在、奈良県の4つの自治体において自伐型林業をメインに移住定住を目指す地域おこし協力隊員が10名以上活動している。自伐型林業の技術習得に関しては、各自治体で現場と重機等を準備し、当団体の講師が毎月訪問指導を行っており技術習得は可能である。しかし、隊員の中で3年後の独立後に向けて自伐型林業以外の副収入の柱を確立している者はほとんどいないと言う現状が隊員への調査で浮き彫りとなった。</p> <p>③副業的な自伐型林業の実現 都市部に住み定職を持つ人が自伐型林業の研修会に参加する事例が増えているが、初心者向けの体験研修会が終わった後、活動する場所がない、技術を向上させる講習会等もないという声で現在でも5名程度寄せられており、今年も同様の初心者講習会を開催する事でニーズが増える事が予想される。休日や余暇を使って副業的、ボランティア的に中山間地域での自伐型林業へ携わりたいと考えているが、仲間を作る事も難しく活動現場や機材の確保も上手く出ていない方がほとんどである。</p> <p>以上の事から本項目の妥当性については「高い」と評価した。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	高い	<p>①自伐型林業での独立を目指す方々の問題、関心、期待や希望 初心者向け研修の修了者はさらなる知識、技術の向上を求めているが、国や地方公共団体の支援も行き届いておらず、さらなるステップアップの研修を確実に実施できる技術や体制を持った機関、団体は全国的に見ても存在しない。その為、奈良県吉野でのハイレベルな「壊れない道づくり」講習会の開催を希望する要望が多数寄せられている。2019年は開催3回で参加者10名、2020年は開催4回で参加者20名での講習会を開催しており、全国の自伐型林業を志す方々の技術習得講習へのニーズは非常に高いと言える。</p> <p>②半林半X実現を目指す方々の問題、関心、期待や希望 前述の地域おこし協力隊員が抱える問題として挙げられたのは、自伐型林業の技術習得に関しては日々の活動を通じて着実に身に付けてはいるが、3年の任期終了後にそれだけで生計を立てるのは難しいと感じている。また、安定的な副業を確立するための行政によるサポートもほとんどなく、そのような機会があれば積極的に活用したいと考えている。協力隊の多くは、任期終了後も各自治体に残って地域資源を活かした持続的な副(複)業の確立による自立を目指しており、副収入の確保に向けた職業訓練のニーズは非常に高いと言える。</p> <p>③副業的な自伐型林業の実現を目指す方々の問題、関心、期待や希望 都市部で定職を持ちながら自伐型林業の研修会に参加する方が増えている。休日や余暇を使って副業的、ボランティア的に中山間地域での自伐型林業へ携わりたいと考えている方が多い。初心者向けの体験研修会が終わった後、活動する場所や仲間を確保する機会が現状では無いため、それらの機会創出を求める声や、他には無いハイレベルな壊れない道づくりの技術を学べる講習会の開催を希望する声実際に寄せられている。</p> <p>以上の事から本項目の妥当性については「高い」と評価した。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	高い	<p>本事業の目標は、自伐型林業の技術教育と独立支援を行うことによってその担い手を全国に育てることである。この事業が効果上げる事によって、経済的にも環境的にも持続可能な複業型林業である自伐型林業が全国に普及し、中山間地への移住定住者の持続的・安定的な仕事（収入源）の確保、また、地域の自然環境の持続的・安定的な活用による循環型地域社会の形成に寄与すると考えられる。そのために実施する活動内容として以下の3つの活動を設定した。</p> <p>①自伐型林業での独立を目指す「自伐型林業学校」の開催 全国で自伐型林業での独立を目指す事業対象者に対して、壊れない道づくり講習会を開催する事によって、より高く正確な技術を身に付ける事を目指す。その成果として全国各地に自伐型林業地が増えている状態を目指す。</p> <p>②半林半X実現を目指す「八千代の学校」の開催 奈良県吉野林業地においては、事業対象者である自伐型林業の地域おこし協力隊に対して、任期終了後の独立支援である複業開拓とサポートを実施する事で、各々の独立と地域への定住が続けられる状態を目指す。</p> <p>③副業的な自伐型林業の実現を目指す「ミニ自伐型林業学校」の開催、の3本柱を設定した。 都市部で定職を持ちながらも、環境面を主に自伐型林業に関わりたいと言う事業対象者に対して、活動地や機材、学ぶ機会を提供する事により、外郭的にもより多くの対象者が自伐型林業による環境保全と地方創世に関わる未来の状態を目指す。</p> <p>そのそれぞれについてのロジックモデル作成については資金提供団体と実行団体の事業関係者でも協議を行い、論理的なつながりが描けていることを確認した。作成したロジックモデルを元の中長期アウトカム、短期アウトカム、アウトプット、活動を明確にした事業設計を組み立てた。</p> <p>以上の事から本項目の妥当性については「高い」と評価した。</p>
	(④事業計画の妥当性)		

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）

本事業は経済的にも環境的にも持続可能な複業型林業である自伐型林業が全国に普及することを目的としており、そのためには本事業を通じて実際にどれだけの人数が自伐型林業での独立を果たしたか、あるいは自伐型林業に携わるようになったかが評価において特に重要であると関係者間で合意された。

加えて、当団体が自伐型林業の技術習得、独立支援のための教育機関として、資機材、現場、講師などの必要な環境を整えられているか、実際に受講希望者が集まり定期的に学校を開催できているかといった実施状況の適切性を検証することも重要であると合意された。

そのためのアウトカム指標として、「学校参加者の中から何名が実際に全国各地の自分の現場で自伐型林業をスタートさせているか」「奈良県での半林半Xを目指す地域おこし協力隊メンバーが、任期終了後何人定住し活動し続けているか」「自伐型林業学校が年に何回開催され、のべ何人が受講したか」といった客観的、定量的な指標が特に重要であると合意された。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

本事業では自伐型林業推進に係る当団体の影響力や実現可能性から考え、特に短期アウトカムに関しては定性、定量的な測定方法を用い評価するものとする。その評価が事業の目的に対してどう作用しているかも合わせて検討する。

自伐協、伴走支援をして頂く団体、奈良県内の自治体等と測定した評価を元に協議し、事業期間中にもより良い中期アウトカムに導く事が出来る様に事業計画を見直す機会を設ける事とする。

新型コロナウイルスの感染拡大など現在の社会情勢においては、講習会等人が集う場を設定する事が困難な状況がしばらく続くかと思われるが、関係者が正しい知識と対応策を心得る事により、受講生に対しコロナ対応講習を加えるなどした上で、安全かつ周囲（地元等）にも配慮した講習会を開催するよう努める事とする。

添付資料